

主体的に自己の進路を選択・決定できる力の育成
～高等学校の現状と中学校における進路指導の実践～

1. 設定理由

「一人ひとりが自立し、社会生活を営む力」すなわち「生きる力」を育てることが教育活動において大切だと考える。中学3年生での進路選択・決定も自立に向けてのステップの一つである。進路選択は自己理解をし、将来をイメージしながら乗り越えていかなくては行けないが、特別支援学級に在籍している生徒は、「自分はどうしたいのか」「何をやりたいのか」など明確化することが苦手である。また特別支援学級在籍生徒の保護者は、進路選択は人生の第1関門だと感じている。そのため中学校における進路指導は重要で、なおかつ様々な生徒の多様な進路選択に適切に対応していくことが求められている。

このことを踏まえて中学卒業後の進路選択という大きな壁をのりこえるためには、早い段階からの適切な指導と支援が必要であると考えた。本人だけでなく保護者にとっても今後を大きく左右する支援になる。そこで生徒の特性に合わせた進路指導を中学3年間の中でどのように生徒・保護者へ行うことが有効的なのか、必要なかを明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- ①特別支援学級の生徒が進学する高等学校の教育課程や特色を調査することで、中学校における進路指導の改善の視点が見つかるであろう。
- ②生徒の特性に合わせて計画的に進路指導を行うことで、より適切な進路選択ができるであろう。

3. 研究内容

- (1) 君津地方4市における中学校特別支援学級在籍生徒の進路状況
- (2) 高等学校(公立高校4校)のとりくみ
- (3) 中学校における進路指導の実践

4. 結論

- 特別支援学級の生徒が進学する高等学校の教育課程や特色を調査することで、生徒に合った進路指導を行うだけでなく、先を見据えた幅広い進路指導が必要だとわかった。
- 生徒の特性に合わせて、計画的に進路指導を行ったことで、より適切な進路選択につながった。
- どの学校へ進学しようとも、生徒と保護者、教職員が中高の違いや進学先の特色をしっかり理解し、三者が同じ方向を向いて進路指導を進めていくことが必要である。

主体的に自己の進路を選択・決定できる力の育成 ～高等学校の現状と中学校における進路指導の実践～

1. 設定理由

近年、小中学校において特別支援学級に在籍する児童・生徒が急増している。2016年度、千葉県の小中学校の特別支援学級在籍児童・生徒は、知的障害学級が5309人（小：3558人，中：1751人）、自閉症・情緒障害学級が3434人（小：2351人，中：1083人）で、前年度よりそれぞれの学級で約300人の増加である。君津地方4市においても小中学校特別支援学級合計数が207学級となり、児童・生徒数は増加している。また通常学級の中にも発達障害のある生徒や支援を必要としている生徒も多い。そのため保護者からの子どもに対する教育的ニーズも多様化しており、教職員の指導力の向上も求められている。

さて、教育活動のテーマは「生きる力の育成」であると考え。『生きる力』とは、一人ひとりが自立し社会生活を営む力である。進路選択・決定も自立に向けてのステップの一つである。特別支援学級の生徒に限らず中学3年生は、進路選択をし、自分の進む道を決定していくことになる。このことは、中学3年生にとって大きな試練となる。進路選択は自己理解をし、将来をイメージしながら乗り越えていかななくてはならない初めての大きな壁であるからだ。生徒たちは、自己について悩む時期を迎える。特に特別支援学級に在籍している生徒は、通常学級の生徒よりも困難さを強く感じる。「自分はどうしたいのか」「何をやりたいのか」など明確化することが苦手で悩みを抱えている。このことから自分の進路を適切に見極め選び、高校卒業後の進路（進学・就職）の選択も自ら判断し選択できる特別支援学級の生徒は少ないように感じる。

また特別支援学級在籍生徒の保護者も、進路選択は人生の第1関門だと感じている。そのため中学校における進路指導は重要で、なおかつ様々な生徒の多様な進路選択に適切に対応していくことが求められている。生徒にとっても保護者にとっても3年後・5年後・10年後の自己の姿を見定めて、今、何をすべきかを考えるには多くの時間が必要である。

このことを踏まえて中学卒業後の進路選択という大きな壁をのりこえるためには、早い段階からの適切な指導と支援が必要であると考えた。本人だけでなく保護者にとっても今後を大きく左右する支援になる。進路指導を中学3年間の中でどのように生徒・保護者へ行うことが有効的なのか・必要なのかを明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

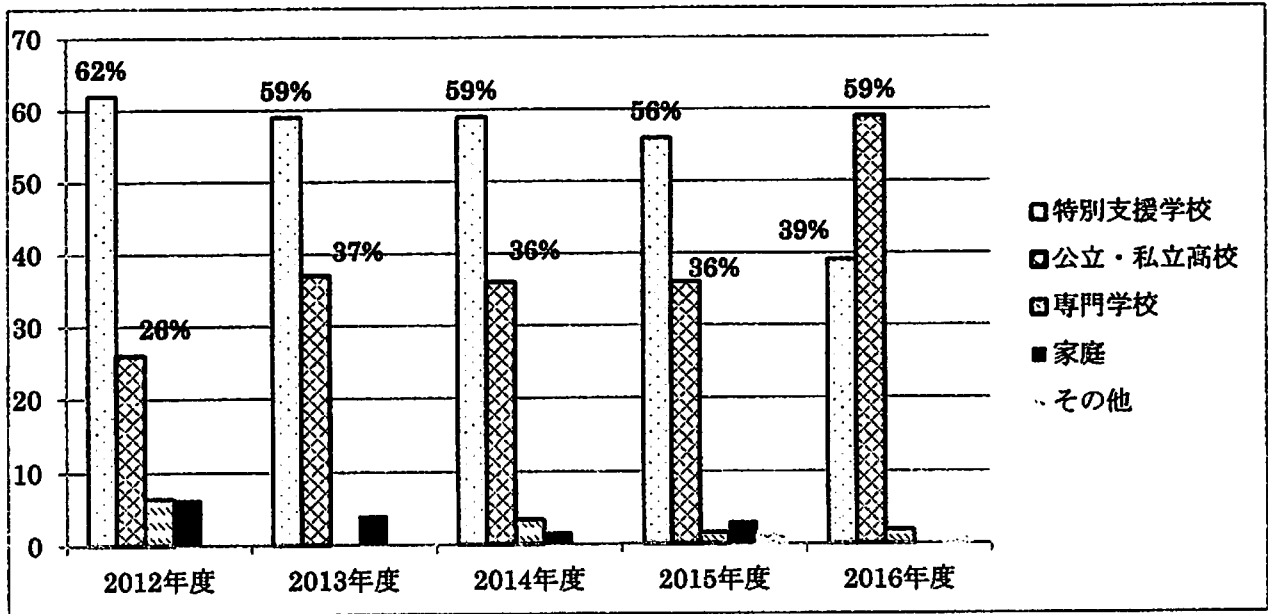
2. 研究仮説

- ①特別支援学級の生徒が進学する高等学校の教育課程や特色を調査することで、中学校における進路指導の改善の視点が見つかるであろう。
- ②生徒の特性に合わせ、計画的に進路指導を行うことで、より適切な進路選択ができるであろう。

3. 研究内容

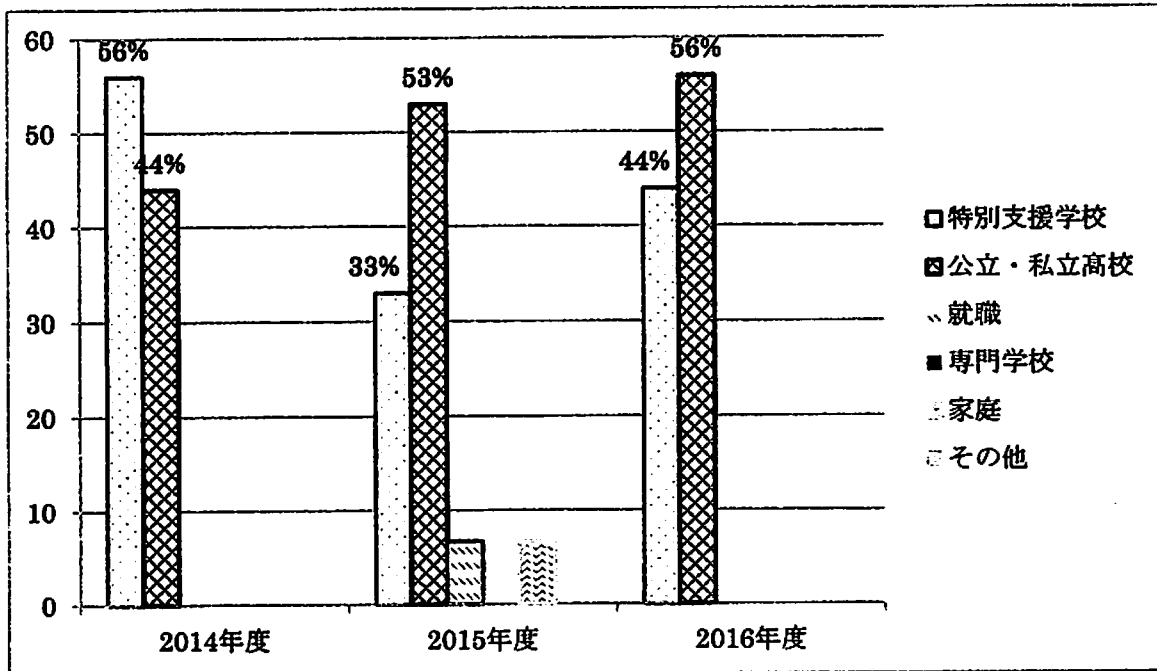
(1) 中学校特別支援学級卒業生の進路状況

<君津地方4市（袖ヶ浦・木更津・君津・富津）の状況>



(君津地方特別支援教育研究連盟総会資料より)

<君津市の状況>



(君津市教育委員会資料より)

グラフからもわかるように、当地区（君津地方4市）の中学校特別支援学級を卒業した生徒のほとんどが、上級学校へ進学している。内訳としては、特別支援学校高等部や公立・私立高校への進学が多い。特に近年、公立・私立高校への進学の割合が、特別支援学校高等部への進学の割合より増えてきている傾向に注目したい。

(2) 高等学校（公立高校4校）のとりくみ

当地区の特別支援学級在籍の生徒が公立・私立高校へ多く進学している現状が明らかになった。高等学校では特別支援学級が設置されておらず（2018年度から[通級による指導]が開始されるように準備が進められている）、特別支援学級から公立・私立高校へ進学した生徒たちは、手厚いサポートや支援を受けてきた環境から、自らの力で学習面・生活面での困難さを乗り越えていかななくてはいけない環境へ日常生活が変化する。

そのため小・中学校では、進学した高等学校で適応できるように支援していくことが大切になると同時に、生徒の特性を理解して本人に合った学校を保護者と共に選択・決定していくことが進路指導のポイントになってくる。

そこで当地区の特別支援学級在籍の生徒が多く進学(希望)している公立高校4校が

- ・どのような指導形態で学習を進めているのか
- ・特別支援学級から進学した生徒はどのように学校生活を送っているのか

について調査（聞き取り）を行った。

*A 高校

校内でアセスという検査を行い、生徒の把握をしている。配慮が必要な生徒については、中高連携シートを用いて中学校から生徒の情報収集を行っている。その情報をもとに必要に応じて各学年・教科担任・全職員で周知を行っている。

また学び直しの時間『ステップアップ』を設けている。学び直しの時間は、昼休み後から20分間を週5日の教育課程に組み込みみんでいる。国語・数学・英語と時事問題をローテーションで取り組んでいる。近隣の大学と連携をしており、週2回教員を目指す大学生が学習ボランティアとして学習指導を行っている。今年度は30人程度の学生に登録してもらい、教室へ教員と学生が2人程度はいる、学習指導を行っている。今年度は特別支援学級から3人の生徒が入学をしているが、不適応を起こすことなく、学校生活を送っている。

*B 高校

学び直しの時間を毎朝10分間取り入れている。数学・英語・国語の基礎(中学既習内容)を中心に学習を進めている。中高連携シートを用いて校内で配慮が必要な生徒の情報を行っている。教科によっては少人数指導を取り入れている。

また、相談に応じて支援学校のサポートを受けられる体制をとっている。学校側も特別支援アドバイザーの派遣を要請し、特別支援学校のアドバイスをもらいながら支援や指導を行っている。

*C 高校

入学前の3月に中高生徒指導連絡協議会を通して特別支援学級在籍生徒の情報を得ている。その後、中学校との情報交換を行い、入学前までに全職員での共有を行っている。1年次は少人数指導を実施し、1クラスを2つに分けて授業を行っている。T.T指導などきめ細かく指導している。テストの点数を重視するのではなく平常点や提出物を重視することで単位取得や進級へとつなげている。そのため「プリントが出せるか」「提出物が出せるか」「メモがとれるか」など書くという作業がきちんとできるかが大切となる。中学校に特別支援学級在籍だったからという理由で何か特別の支援をしていることはほとんどない。

*D 高校（定時制）

春休み中に中学校と情報交換を行う。その後夏休み前に全職員に周知させる形を取っている。期待する生徒像は『仕事と学業を両立できる生徒』だが、実際のところ1/3くらいの生徒が仕事に就いていない。業種についてはアルバイトの生徒がほとんどである。コミュニケーションスキルに課題を抱えている生徒も多く、普通に就職試験を突破することは難しい現状がある。出席・提出物がクリアしていれば単位が認められるように支援を行っている。また特別支援学級在籍だったということを伝えず入学してくるので、支援の難しさを感じることも多い。

調査していく中で、各高等学校が独自の指導形態や内容を取り入れて、とりくんでいることがわかった。その背景には中途退学者の増加が課題になっていることもわかった。またどの学校も共通して《中学・高校の違いを理解した上で入学してきてほしい》と願っていた。

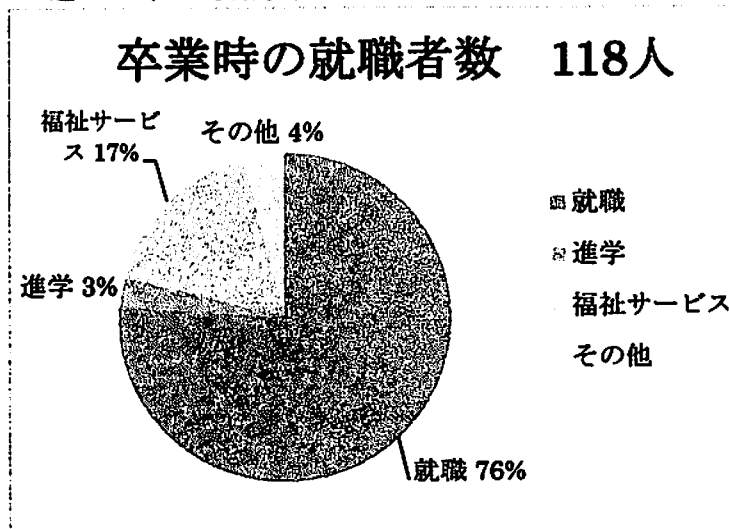
*＜高校卒業後の進路について＞

高等学校では、不適応を起こさないようあらゆる支援や声かけを学校全体でとりくんでいるので、特別支援学級在籍だった生徒は3年間で卒業をしている割合が多いようだ。しかし問題なのはその後の進路だと高校の先生方は声をそろえて言っていた。

就職試験は他の生徒と同じ土台に立ち乗り越えて行かなくてはいけない。その時点で特別支援学級在籍だった生徒は、突破できないことが多い。また無事就職しても、勤務中に起こる出来事に上手く対応ができず、辞めてしまうことも多い。福祉や療育手帳の利用で就職していれば、周りの理解もあり支援を受けながら働いていくこともできる。

★E 特別支援学校の卒業後の進路

過去5年の進路状況



障害者枠での就職がほとんどである。卒業後3年間は職場定着のための支援体制を継続して行っている。そのため卒業後3年間の離職者数は少なく、定着率は85.1%である。

高校のとりくみや課題を知ることができ、中学校での進路指導の大切さがわかった。特別支援学校、公立・私立高校のどちらの学校へ進学しようとも、生徒と保護者、教職員が中高の違いや進学先の特色をしっかりと理解し、そしてその後の進路についても理解を深めていく必要がある。

(3) 進路指導の実践 (君津市立久留里中学校)

○年間指導計画

中学生の進学状況や高等学校の現状を踏まえ、生徒にあった進学先へ進み、将来の自立や社会参加へ向けた指導をしていくために以下の内容にとりくむことが大切である。

- ①学校全体で実施する3年間の進路指導の計画を中心として進路指導を行う。
- ②一人ひとりの障害の特性に配慮しながら指導をする。
- ③生徒自身の「将来の夢・希望」を知る。
- ④「将来の自分」から「今の自分」を見つめる時間を作る。
- ⑤保護者との情報交換・共通理解を図る。

上記のことを踏まえて、本校では以下の計画で進路指導を行っている。

学期	月	進路指導計画	対象学年			保護者	備考
			1	2	3		
1 学期	4 月	年間指導計画の作成	○	○	○	情報交換 参加をしてもらい 話を一緒に聞いて もらう	年間通して指導を行う 年間通して指導を行う
		家庭訪問	○	○	○		
		作業学習の指導	○	○	○		
		生活単元学習・自立活動の指導 <実践1>親子進路学習会 ↑授業参観で行う。 (先輩から話を聞く)	○	○	○		
	5 月	職場体験学習に向けて		○			
	6 月	★職場見学会(君津市) 学校見学 職場体験学習に向けて	○	○	○	参加を促す	君津市の活動
	7 月	職場体験学習に向けて 進路希望調査① 三者面談	○	○	○	情報交換	
2 学期	8 月	<実践2>職場体験学習 学校見学・施設見学など	○	○	○	協力を得る 参加を促す	
		体験入学 職場体験学習のまとめ 進路希望調査②	○	○	○	参加を促す	
	10 月	体験入学 進路学習会 進路希望調査③ 三者面談	○	○	○	参加を促す 保護者も参加 情報交換	
		11 月	進路希望調査④ 三者面談・面接練習			○	情報交換

	12月	職業調べ 高校調べ 進路希望調査⑤ 三者面談・面接練習	○	○	○ ○	情報交換	
3学期	1月	職業調べ 高校調べ 入試対策	○	○	○	情報交換	
	2月	職業調べ 高校調べ 入試対策	○	○	○	情報交換	
	3月	職業調べ発表←授業参観 高校調べ発表←授業参観	○	○		参加を促す	

★君津市の活動『職場見学会』

これは君津市のとりくみである。進路選択を踏まえて特別支援学級在籍の中学生を対象に職場見学会を行っている。基本的には3年サイクルとして『高校』『職場』『特別支援学校』を対象にローテーションをしている。

この行事を通して生徒たちは、自分の進路について考え、上級学校や職場の特徴や素晴らしさを体験し進路決定の参考にすることができる。またこの行事は、6月の平日に実施しているので、高校生の日常の様子がより伝わってくる。高校生の実際の活動を見ることは、生徒だけでなく、私たち教職員にとっても大変勉強になり、進路指導に役立てるほか保護者への情報提供の参考になるので大変有効的である。

(資料1：H29 職場見学会の流れ 資料2：過去8年間の見学先)

<実践1>親子進路学習会『先輩から学ぶ』

本校の特別支援学級在籍数は計4人(知的学級3人、自閉症・情緒学級1人)で全て中学3年生である。しかも初めて受験を迎える家庭がほとんどである。そのため、進路・受験に大きな不安を抱えている。そこで保護者が参加しやすい学校行事を利用して学習会を持つことを考えた。特別支援学級を卒業した生徒を本校にゲストティーチャーとして招き、本校の生徒が進路について学習する場を計画した。卒業生が参加しやすく、かつ本校の学校行事の日程と合う4月の授業参観日を学習会の場と設定した。

・未来予想図の作成

生徒たちには、年2回未来予想図を書かせている。未来予想図を書かせることで自分の進路や夢について考えさせる時間を多く取るように心がけた。

未来予想図を書かせてみると、自分の将来についてイメージを持つことが苦手なことや自分自身がこれからどうしたいのかを考える・想像する力が弱い生徒が多いことがわかった。また生徒たちは高校へ進学したいという思いはあるものの、「なぜ高校へ進学するのか」「進学するためには何をしなくてはいけないのか」「高校ではどのような勉強をしているのか」「高校ではどのような生活をしているのか」など想像がついていない生徒がほとんどであった。

未来予想図①

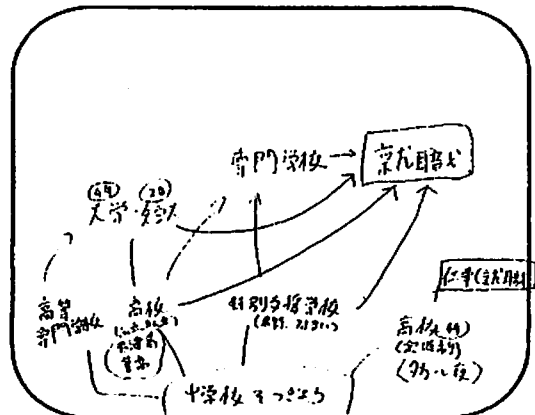
数年後も想像して
未来予想図をつくってみよう

名前

平成〇〇年	年齢	ことがら
	6歳	久留米小学校 入学
	12歳	久留米小学校 卒業 久留米中学校 入学
	18歳	
	24歳	
	30歳	

未来予想図②

中学卒業後の道路



20歳の自分はどこで働いている？

給付金ももらって、(+)のこともしたい。
さっさと働きたい。

進路学習会～先輩から学ぼう～

右の図のような流れで当日は進路学習会を行った。5人の卒業生とその家族が集まった。卒業生5人が「自分が歩んできた道・今歩んでいる道」について話をしてくれた。

参加してくれた卒業生5人の内訳は

- ・高校1年生(15歳) 1人
- ・社会人1年目(18歳) 1人
- ・社会人3年目(20歳) 2人
- ・社会人5年目(22歳) 1人

である。

進学先は公立高校1人，特別支援学校4人である。そして5家族を代表して1人の保護者が親の立場として生徒に向けて話をしてくれた。

進路学習会当日の流れ→
(資料3)

進路学習～先輩から学ぼう～

ゆめで 先履道の道を聞いて自分の進路について考える。
先履道の道から少年期の自分の目標を定める。
同じの人たちに話して未来の思いを伝える。

ひらき 平成29年4月15日(土)

時間 13:00～15:00 昼間研修

場所 香川県立久留米中学校 なのはな学校 体育(2階)

集合場所と時間 12:45...久留米中学校 1階 IT教室
3年 生徒玄関口より入っていただきます。
目の前にある教室(階 IT教室)へお入りください。
生徒玄関口は、職員玄関に隣って左側にあります。

参加者 <生徒> 久留米中 特別支援学校生等 8～4名
<卒業生> [Redacted]

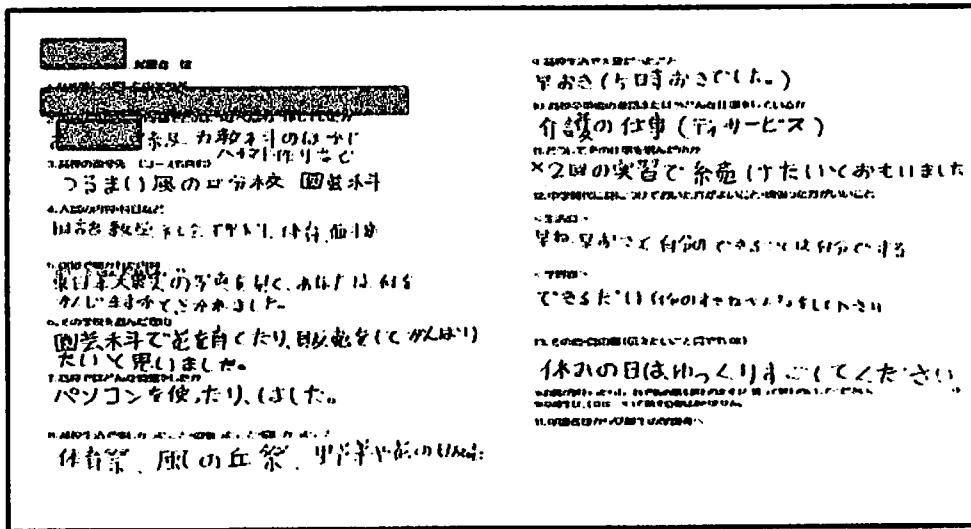
時間	内容
2分	あいさつ ゆめでの開催 久留米中生徒 西巳郎介
15分	来てくださった先履道からのお話 一人5分程度でお願いします。 [Redacted]
15分	久留米中の生徒より質問
15分	久留米中から質問
20分	交流タイム
3分	おとめ

※時間配分については変更があります。

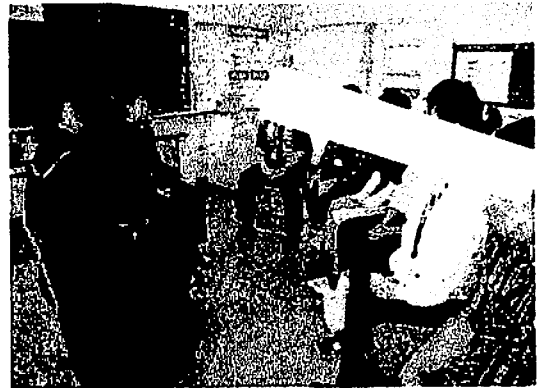
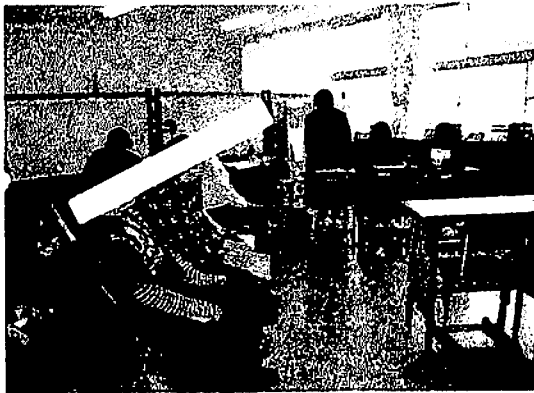
・ワークシート (卒業生用)

卒業生には、当日話しやすいようにワークシートを事前に送付しておいた。話す内容を記述してもらい、当日は「1」から順番に話をしてもらおうようお願いした。(ワークシート 資料4：本校生徒用 資料5：卒業生用)

↓当日参加してくれた卒業生のワークシート



↓活動の様子（資料8）



<感想>（資料6・7）

○生徒より

- ・先輩達の話聞いてわかりやすかった。
- ・もっと勉強頑張らないといけないと思った。 ・○○高校へ行きたいと思った。

○生徒の保護者より

- ・もう少しゆっくり卒業生の保護者の方とお話できれば良かった。
- ・もう少し真剣にこれから先のことを考えていかないといけないと思った。

○卒業生より

- ・楽しかったです。 ・中学生がたくさん質問してくれたので嬉しかったです。
- ・また呼んでください。少しでもお役に立ちたいので…

○卒業生の保護者より

- ・このような機会があればまた参加させてほしい。子どもにも良い刺激になるので…
- ・こういう機会があると改めて自分の子どものことについて考えるようになった。
- もう少しゆっくり話ができると良かった。

卒業生からの話や質問の回答を聞くことで、本校の生徒たちは進路や高校について少し明確化され目標がより具体化され、意欲の向上へとつながったように感じた。これは生徒

だけでなく、一緒に参加した保護者も同様であった。保護者にとっても卒業生の保護者からの話は、高校選びやその後の進路や子どもの成長に向けてどう考え関わっていけば良いのかを改めて考えるきっかけになったようだ。また進路への不安が軽減されただけでなく、卒業生の保護者から声かけをしてもらい、表情が次第と明るくなっていくのを感じた。進路学習会が参加者全員にとって良い時間となった。

<実践2> 特別支援学級在籍のAへの支援（職場体験学習）

中学校では、中学2年生でキャリア教育として職場体験学習を行うことが多い。特に特別支援学級の生徒の職場体験学習は進路を決めていく重要な機会となると考えている。生徒の中には自分の夢や希望に自信が持てず、将来へ悲観的な思いを抱いている生徒もいる。また働くことへの意欲が低下している生徒もいる。そのような生徒にとって職場体験学習は、働くことへの意欲だけでなく、生徒自身の自己理解や自己肯定感の向上へとつながるのではないかと考え、生徒Aに以下の実践を行った。

特別支援学級（知的学級）在籍の生徒Aの実態

人との関わりを苦手としているA。登下校は他の生徒とずらしている。生活のほとんどは本人専用の小部屋で生活をしている。この部屋はパーティションで囲まれており誰からも見えない、見られないようになっている。授業の時は小部屋から出てきて受けるが、その際も他の生徒からは生徒Aの姿は見られないように配慮をしている。しかし自分の席で受けることは非常に少ない。他の生徒と関わることを避けているため、他の生徒とは一切会話をしない。会話をするのは大人だけでしかも限られている。騒がしい場所も苦手である。自分の思い通りにならないと怒り出してしまい小部屋にこもってしまうことも多い。異性も苦手である。口答で伝えることが非常に苦手なので、筆談で伝えることが多い。もの作りや絵を描くことなどは好きで集中してとりくむことができる。

<就労継続支援B型事業所への職場体験学習>

① 生徒理解

生徒Aは、人と関わるのが苦手な意志の疎通も難しい。基本的には自分から話しかけることはない。伝えたいことがあると筆談をして伝える。そのため職場体験を他の生徒と一緒にすることは難しい。

しかし、1対1の状況なら比較的活動に参加できる。また生徒Aは物づくりも好きで集中度も高い。落ち着いた環境で配慮を得られる職場であれば仕事をしていくことも可能なので、生徒の特性を理解して受け入れてくれる職場を探した。

② 職場選択

将来の希望へつながるきっかけとなるように職場選択を進めた。生徒の特性を理解した上で受け入れてくれる職場かつ生徒Aが希望する職種を探した。

③ 職場決定に向けて

物づくりができ、生徒Aの特性を理解したうえで受け入れてもらえる職場→作業所
→ 第1希望を『地域作業所 hana』とした。

生徒とともに『地域作業所 hana』のホームページをみて

1. 場所
2. 勤務時間・仕事内容
3. どのような人が働いているのか

などを調べた。

保護者・本人の希望もあり『地域作業所 hana』に受け入れ可能かを確認した。

④職場との打ち合わせ（教員）

受け入れ可能となり、職員の方と打ち合わせを行った。

打ち合わせ内容は

- ・特性について（どういうときに困難さが出てくるか）
- ・得意なこと・苦手なこと
- ・体験時間や内容について

である。

打ち合わせをしたことで以下の配慮をしてくれた。

- 対応してくれる職員は同性
- クールダウンの場所の提供
- 簡単な作業
- こまめな声かけ

⑤職場との打ち合わせ（生徒）

安心して打ち合わせができるように担任と一緒に参加した。生徒Aは上手に話が進められるようにそばで声かけを行った。

⑥職場体験学習当日（資料9）

担任が毎日職場へ行き、生徒Aが安心して参加できる環境を作った。

⑦事後指導（職場体験学習終了後）

お礼状の作成をし、作業所へ届けた。

<効果>

- ・生徒が希望した職種での体験学習で、かつ事前の打ち合わせを通して職場の受け入れ体制が整っていたことで、生徒はどの活動に対しても意欲的に参加することができた。
- ・保護者がすぐに迎えに来られるようにしておいたので、生徒も安心して参加できた。
- ・本人が希望していた活動時間（10～12時）よりも、実際は長い時間（10～16時）で活動することができた。
- ・将来への夢や希望が強まった。また活動へ意欲的にそして目的をもって取り組むようになった。

<受け入れ先より>

- ・この経験が次への高校進学、就職へつながればうれしく思う。こちら側も受け入れることで大変勉強になったのでよかった。これからも学校機関ともつながっていききたいので、協力させてほしい。

4. 結論

○特別支援学級の生徒が進学する高等学校の教育課程や特色を調査することで、生徒に合った進路指導を行うことはもちろん、高校卒業後のことや社会生活（就労）などで困ったときにどうするべきかなど幅広い進路指導が重要だとわかった。

○生徒の特性に合わせ、計画的に進路指導を行ったことで、より適切な進路選択につながった。

○どの学校へ進学しようとも、生徒と保護者、教職員が中高の違いや進学先の特色をしっかり理解し、三者が同じ方向を向いて進路指導を進めていくことが必要である。

資料

< 資料 1 >

H29年度 中学校特別支援学級合同職場見学会

1. 目的
 - (1) 高等学校や特別支援学校の職業科の体験をとおして、進路に向けた目標を持ち、日々の学校生活で身に付けておくことの意識化を図る。
 - (2) 進路に関する体験や視野を広げ、主体的な進路選択をするための一助とする。
 - (3) 君津市内の中学校特別支援学級生徒の交流を深め、共に学ぶ機会とする。
2. 期日 平成29年6月29日(木)
3. 場所
 - 千葉県立上総高等学校
299-1107 君津市上957 0439-32-2311
 - 千葉県立天羽高等学校
299-1606 富津市数馬229 0439-67-0571
4. 参加者 君津市内中学校特別支援学級在籍生徒
5. 引率 君津市内中学校特別支援学級担任
6. 交通 君津市生涯学習課バス
7. 計画(バス運行計画)

場 所	時 間	場 所	時 間
市役所バス駐車場 (周西中、周西南中)	8:15	天羽高校 着	12:40
君津中正門(君津中)	8:20	説明、見学	13:00
君津バスターミナル (周南中、八重原中)	8:30	出発	14:40
小系中入口 全員降りて小系中 の会議室で待機する	8:40	君津駅南口(周西中、南中)	15:10
小櫃公民館(小櫃中・久留里中) ※久留里中は久留里 8:12発 に乗車 小櫃8:20着	9:00	君津中正門(君津中)	15:20
小系中入口(再度バス乗車)	9:20	君津バスターミナル (周南中、八重原中)	15:30
上総高校 着	9:30	小系中入口(小系中、清和中)	15:40
説明会、見学、 (昼食)	10:00	小櫃公民館(小櫃中・久留里中) ※久留里中は 16:24 発に乗車	16:00
出発	11:40	市バス車庫着	16:30
	12:10		

○朝に関して

- ・周南中はコミュニティバスに乗車し、君津バスターミナルに集合する。
- ・久留里中は久留里線に乗車し、小櫃公民館に集合する。
- ・清和中は小系中会議室に集合する。
- *小系よりも西の学校は小系中で一度待機

○帰りに関して

- ・周西中と周西南中は君津駅まで迎えに来てもらう。
- ・久留里中は久留里線 小櫃駅 16:24 発に乗車する。
- ・周南中はコミュニティバスに乗車し、学校に帰る。

※JR・バスの運賃は就学奨励費で請求する。

8. 持ち物

- *制服着用。
- 単元帳、上履き、お弁当、飲み物、筆記用具、ハンカチ、ティッシュ

9. 事前学習

- ・それぞれの学校については、事前に調べ、質問内容をまとめておく。説明会では、一校一人、質問ができるようにしておく。

10. 分担

- ・バス内 朝の会 (君津中)
- ・上総高校でののはじめの会(八重原中)
- 【自己紹介含む】
- ・ // 終わりの会(小系中)
- ・昼食の号令 (周西南中)
- ・天羽高校でののはじめの会(周西中)
- ・ // 終わりの会(小櫃中)
- ・バス内 帰りの会(久留里中)
- ・単元帳作成 (周南中)

<資料 2 >

過去8年間の見学先一覧

年度	内容	見学先
2017年度	高校	千葉県立上総高等学校 千葉県立天羽高等学校
2016年度	特別支援学校	市川大野高等学園 千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校
2015年度	職場	市原高等技術専門学校 カフェハーモニー（千葉市）
2014年度	高校 特別支援学校	千葉県立上総高等学校 館山聾学校
2013年度	職場	日本理化学工業（チョークの会社） （川崎市高津区）
2012年度	高校 特別支援学校	千葉県立天羽高等学校 千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校
2011年度	特別支援学校 職場	千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校 ながうらワークホーム（袖ヶ浦市）
2010年度	職場	望みの門（富津市） ふるさと学舎しぜん工房（市原市）



↑市原高等技術専門学校見学(2015)



↑市川大野高等学園見学(2016)

<資料 3 >

親子学習会の流れ

進路学習～先輩から学ぼう～

- めあて
- ・先輩達の話聞いて自分の進路について考える。
 - ・先輩達の話から今年度の自分の目標を定める。
 - ・目上の人たちに対して失礼の無い対応をする。

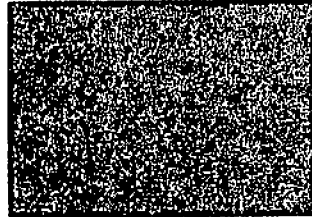
ひにち 平成 29 年 4 月 15 日(土)

時 間 13:00～13:50 授業参観



場 所 君津市立久留里中学校 なのはな学級 教室(2階)

集合場所と時間 12:45・・・久留里中学校 1階 TT 教室
3年 生徒昇降口より入っていただき、
目の前にある教室(1階 TT 教室)へお入りください。
生徒昇降口は、職員玄関に向かって左側にあります。

参加者 <生徒> 久留里中 特別支援学級生徒 3～4 名
<卒業生>



流 れ(50分授業)

	内容
2分	あいさつ めあての確認 久留里中生徒 自己紹介
15分	来てくださった先輩達からのお話 一人3分程度でお願いします。 原番…  さん
5分	久留里中の生徒より質問
5分	 さんの保護者様より
20分	交流タイム
3分	まとめ

※時間配分については変更があります。

<資料 4 >

進路学習会 生徒用ワークシート

名前						
卒業した中学校						
どの学級で どんな勉強を していたか	特別支援学級 在籍	特別支援学級 在籍	特別支援学級 在籍	特別支援学級 在籍	特別支援学級 在籍	特別支援学級 在籍
進学先 コースも書くこと						
入試の 内容・科目						
面接で 聞かれた内容						
その学校を 選んだ理由						
高校ではどんな 勉強をしたか						
高校で 楽しかったこと うれしかったこと						
高校生活で 大変だったこと						
高校卒業後の進 路・どんな仕事 をしているか						
どうしてその仕 事を選んだのか						
中学時代に 身につけて おいたほう がよいこと	生活 面					
	学習 面					
頑張ったほう がよいこと						
その他						

< 資料 5 >

進路学習会 卒業生用ワークシート

<p>おん と 藤原 君</p> <p>1.お名前と卒業した中学校名</p> <p>2.中学生ではこの学校でどのようなべんきょうをしていたか</p> <p>3.高校の進学先 (コースも含む)</p> <p>4.入校の内容-科目など</p> <p>5.置戻で聞かれた内容</p> <p>6.その学校を選んだ理由</p> <p>7.高校ではどんな勉強をしたか</p> <p>8.高校生活で楽しかったこと・頑張ったこと・悔しかったこと</p>	<p>9.高校生活で大変だったこと</p> <p>10.高校卒業後の進路または多様な仕事をしているか</p> <p>11.どうしてその仕事を選んだのか</p> <p>12.中学時代に身につけておいた方がよいこと・頑張った方がよいこと</p> <p><生活面></p> <p><学習面></p> <p>13.その他お名前(仮えたいこと何でもOK)</p> <p>※お返事が終わったら「これで私の話を終わります」と自覚して終わらせてください 卒業生は、「11」について話す必要はありません。</p> <p>11. 保護者様から卒業生の保護者へ</p>
--	---

< 資料 6 >

進路学習会 生徒の感想

進路学習～先輩から学ぶ～を聴いて

名 前

ゆめ

- ・先輩たちの話を聞いて自分の進路について考える。
- ・先輩たちの話から今年度の自分の目標を考える。
- ・目上の人たちに対して失礼のない対応をする。

- ゆめを達成できましたか。 はい いいえ
- 自分の発表(質問)は大きな声でできましたか はい いいえ
- 先輩たちの話を集中して聞くことができましたか はい いいえ
- 自由な感想を書きましょう。

先輩の話を聞いて自分の進路について考える。
先輩たちの話から今年度の自分の目標を考える。
目上の人たちに対して失礼のない対応をする。

○今年度、進路に向けての目標を書いてみよう。

自分から積極的に発言する
あきらめず頑張る
いらいやんやんはする

進路学習～先輩から学ぶ～を聴いて

名 前

ゆめ

- ・先輩たちの話を聞いて自分の進路について考える。
- ・先輩たちの話から今年度の自分の目標を考える。
- ・目上の人たちに対して失礼のない対応をする。

- ゆめを達成できましたか。 はい いいえ
- 自分の発表(質問)は大きな声でできましたか はい いいえ
- 先輩たちの話を集中して聞くことができましたか はい いいえ
- 自由な感想を書きましょう。

高校の大変なことがあった。
先輩は、高校で何か学んだ事などをいかにして
しっかり身につけていこうと決意しました。

○今年度、進路に向けての目標を書いてみよう。

勉強を頑張る。
仲間で行きたい高校に入るために勉強を頑張る。

<資料 7>

進路学習会 卒業生・保護者の感想

『進路学習～先輩から学ぶ～』を終えて

本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。
今後の参考にさせていただきますので、アンケートのご協力をお願いいたします。

1. 当日までの流れ(内容)などは、どうでしたか。

とてもわかりやすかったです。

<当日の流れについて>

2. 卒業生の発表時間はどうでしたか。

ふつうです。

3. 久留米中生からの質疑タイムはどうでしたか。

気になった質問を挙げてくれたのがうれしかったです。

4. 交流タイムはどうでしたか。

時間が少し短かったです。

5. 久留米中生の雰囲気はどうでしたか。

とても良いです。

6. 発表の進行はどうでしたか。

とても良かったです。

<その他>

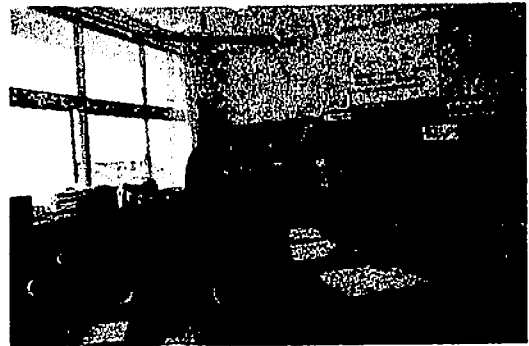
7. 気になったことやアドバイスなど、ご自由にお書きください。

とくにありません。

ご協力ありがとうございました。記入がわかりましたら、ぜひお返事ください。 様

<資料 8>

学習会の様子



『進路学習～先輩から学ぶ～』を終えて

本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。
今後の参考にさせていただきますので、アンケートのご協力をお願いいたします。

1. 当日までの流れ(内容)などは、どうでしたか。

よくわかりました。特に問題はなさかと思っております。

<当日の流れについて>

2. 卒業生の発表時間はどうでしたか。

発表の時間は、たのしかったです。
発表時には、もう少し長い時間だったと思っております。

3. 久留米中生からの質疑タイムはどうでしたか。

いい質問も聞きました。
今の進路に悩んでいる人にも質問はいいと思います。質問はいいと思います。

4. 交流タイムはどうでしたか。

たのしかったです。
10分ほど短縮されたかと思っております。

5. 久留米中生の雰囲気はどうでしたか。

よく聞いていました。礼儀正しかなと思っております。

6. 発表の進行はどうでしたか。

かみはりました。
良いかと思っております。(質問も丁寧でした。)

<その他>

7. 気になったことやアドバイスなど、ご自由にお書きください。

自分でやることです。
進路の悩みは、進路の悩みの中にあります。その悩みは、自分自身で解決できるようにしてあげてください。進路の悩みは、自分自身で解決できるようにしてあげてください。進路の悩みは、自分自身で解決できるようにしてあげてください。

ご協力ありがとうございました。記入がわかりましたら、ぜひお返事ください。 様

<資料9>

職場体験学習の様子



←地域作業所 hana にて
実習を行う。

<資料10>

その他のとりくみ

- ・職業調べ・発表(中1)
- ・高校調べ・発表(中2)

中学1年で職業調べ、中学2年で高校調べを行った。どの活動も自ら調べたい職業・学校について調べた。様々な進学先があることを事前学習していたので、調べたい学校についてはスムーズに決めることができた。調べたい学校は、志望校を選んでいる生徒がほとんどであった。

基本的には通常学級の生徒と同じ内容で行った。通常学級の生徒と同じようにインターネットを使って調べ、まとめ、パソコンを使って文書にまとめた。最後に全員分を冊子にまとめ、それをもとに発表を行った。授業参観で発表会を行った。自分の興味のある職業・学校を調べることで進路選択に向けての良い機会となった。

・保護者への情報交換

進路に向けて考えていく中で避けて通れない点は保護者との共通理解である。情報を共有していくためには保護者との信頼関係をまずは築くことが大切になってくる。そこで以下の方法を用いて保護者との情報交換や共通理解の場を持っている。

①連絡帳でのやりとり

できるだけその日の活動の中で頑張ったことや様子を多く伝える。

②学級通信を利用した情報伝達

③配付物を通しての情報伝達

④三者面談

⑤電話による情報交換

⑥必要に応じて家庭訪問

・進路をふまえての高校見学

通常学級の生徒は中学3年生になると学校見学を行う。学校見学・体験入学は、夏休み(中3)に行われることが多い。多くの生徒が、この時期に志望している学校へ見学

に行く。そして進路を決定する材料にしていく。しかし、特別支援学級の生徒の多くは、自ら自分の進路・高校卒業後の進路について考え、選び、決定していくことが難しいことが多い。また1回の見学だけで決定することも難しい。そのため特別支援学級の生徒にとって、高校選びや進路決定にむけてのとりくみは、できるだけ早く始めておくことがベストである。進路決定は保護者にとっても大きな課題である。そこで本校では中学1年生の段階から学校見学への参加の呼びかけを行っている。

また現在、普通高校を希望する保護者も多い。高校についての情報提供も大事であるが、同時に生徒の実態を理解してもらうための情報交換も密に行っている。情報交換をする中で伝えていることは『高校入学がゴールでは無いこと』である。最終目標は『働くこと・自立』であるので、高校入学がスタートであり、高校卒業後の進路について視野を広げて進学先を決定していくことが大事だと伝える。

・療育手帳の申請について

特別支援学校へ入学する際は、原則療育手帳の交付が必要となる。しかし、中学校の特別支援学級の生徒全員が取得しているとは限らない。

特別支援学級の生徒の中には普通高校に進学するから必要ないと考えている保護者も多い。しかし、中学校では普通高校へ進学する生徒でも必要だと感じた場合には、療育手帳の重要性について話をするようにしている。最終目標は就職・自立である。普通高校へ進学し高校3年生になるとその他の生徒と同じ土台で就職試験を受けに行く。その中を勝ち抜いて就職をしていくことは、かなり難しいのが現状である。しかし療育手帳を持っていれば、福祉を利用し就職先が選びやすくなる。

毎年中途退学者が全国で約5万人以上いると言われている。そのうち半数以上が1年次での退学である。理由は様々であるが不適應が大半を占める。

(平成25年 中途退学者等追跡調査より)

中途退学後、何らかの学習をしている人は21.6%である。

中途退学後、働いている人(非正規雇用)は41.6%という現状がある。

*約70%中途退学者がハローワークなどの活用方法を知らない。

(平成23年 内閣府調査)